# 水中ドローンで災害救助

## 郡上のスクール、来月開講

## 資格新設視野 操縦士を養成

郡上市美並町上田のドローン操縦士養成スクール「ROBOZ（ロボッツ）」は2月から水中ドローン（小型無人潜水機）スクールを開講する。水中ドローンはダムや橋脚など建設現場などで活用が進む。今後は、災害救助などでの活躍も見込まれ、石田宏樹社長は「長良川での水難事故捜索でも絶対役立つ。まずは使える人を増やしたい」と話している。（田代理加）

◇

同社は、災害時にドローンを出動できる仕組みをつくろうと、専門家らと「県ドローン災害救助士協会（仮称）」の設立を模索している。ドローン災害救助士という資格制度で技術の高い操縦士の組織づくりを目指す。空を飛ぶドローンとともに水中ドローンも資格の対象となる。

スクールは1日コース（税別5万円）で、専用プールや同社近くの渓流を使って操作の実技実習を行う。カリキュラムを修了すると、同社認定オペレーターの資格が得られ、同協会が新設する「ドローン災害救助士」取得への近道になるという。

石田社長は「空を飛ぶドローンより安全性も高く、アクティビティーとして楽しみたい方も大歓迎。普段見ることができない水中の世界を体験してほしい」と話している。月1回程度開かれ、定員7人。開講日など問い合わせは同社、電話0120（066）156。

操作しながら水中ドローンを紹介するROBOZの石田宏樹社長＝郡上市美並町上田

岐阜新聞Webに動画

I LOVE GIFU
創刊 明治14年

無断複製・転載を禁じます